

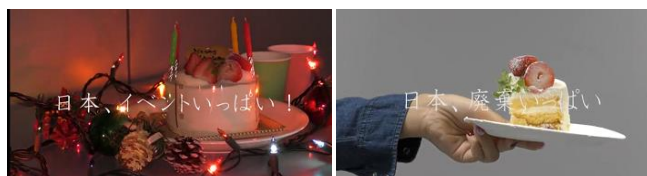
10年連続 AC ジャパン広告学生賞を受賞！

—学生が感じた社会の課題を作品として発信—

武蔵大学（東京都練馬区／学長 山崎哲哉）は、社会実践プロジェクトの一つ「ACプロジェクト」において毎年、学内コンテストで選抜された作品を「AC ジャパン広告学生賞」（公益社団法人 AC ジャパン主催）へ応募しています。2017年度は社会学部メディア社会学科 2年生のチームによる作品『まだ食べられるのに』が優秀賞を受賞。日本における食品の大量廃棄の現状を映像で表現しました。本学社会実践プロジェクトの作品が入賞したのは10年連続となります。

第14回「AC ジャパン広告学生賞」優秀賞 受賞作品について

- 作品名：『まだ食べられるのに』
- 制作スタッフ：社会学部メディア社会学科 2年生
／中別府亮太、越南亜美花、引場碧、平岩佑紀香



■ 作品内容

Q1.このテーマを選んだ理由は何ですか。

コンビニやスーパーで節分の時期に売られていた恵方巻きが、大量に廃棄されていたのをニュースで見て、食品ロスを知りました。そして一人あたりの排出量は日本が最も多いことを初めて知りました。企業だけでなく消費者が意識することも必要だと感じ、まず日本のこの現状を知ってもらいたいという意図でこのテーマを取り上げました。

Q2.作品にどんなメッセージを込めましたか。

日本では年間を通して様々な季節行事が定着しており、イベントがたくさんあって楽しい反面、その裏には大量廃棄などの問題があるということです。シンプルに伝えるために、視覚的に入ってきやすい映像や、表現を心がけました。

Q3.制作中のエピソードについて教えてください。

作品制作中のエピソードとしてはみんなで食べたケーキが印象的でした。CM に使われた食べ物は撮影後、チームのメンバーで食べました。潰れたケーキをみんなで食べるというのは新鮮でしたが、味に変わりはありませんでした。

Q4.受賞の感想をお願いします。

こうした賞を頂けるとは思っていなかったもので、連絡が来たときは驚きました。撮影や準備に時間がかかった作品なので結果を残せたのはとても嬉しいです。チーム内でのアドバイスや協力に感謝しています。

(コメント：チーム代表・中別府亮太)

社会実践プロジェクトとは？

武蔵大学が学生の自主活動を支援する授業外のプロジェクトです。学生が主体となって企画・立案し、ゼミで学んだことを実践。単に社会と関わるというスタンスを越えて、社会に向けて自らの知見や主張を積極的に発信していこうという想いで活動しています。

■ 過去の受賞作品（テレビCM部門）

- 第13回〈優秀賞〉受賞作品『ジョーカー』
- 第12回〈奨励賞〉受賞作品『それって、どう感じる？』
- 第11回〈奨励賞〉受賞作品『言葉≤365』
- 第10回〈奨励賞〉受賞作品『ヒーロー』
- 第9回〈最優秀表現技術賞〉受賞作品『きみの「助けて」を待っているよ。』
- 第8回〈奨励賞〉受賞作品『手は思いを伝える』
- 第7回〈奨励賞〉受賞作品『「すみません」より「ありがとう」を』
- 第6回〈優秀賞〉受賞作品『他人（ひと）への気配りできてますか？』
- 第5回〈奨励賞〉受賞作品『孤食』

■武蔵大学〔アクセス：西武池袋線「江古田駅」から徒歩6分〕 ～都心に近く 緑豊かなワンキャンパス～

武蔵大学の前身は、東武鉄道や東京地下鉄道（現東京メトロ）など多くの鉄道事業に携わり「鉄道王」と呼ばれた根津嘉一郎（初代、1860～1940）が、1922（大正 11）年に私財を投じて創立した日本初の私立旧制七年制武蔵高等学校。戦後の学制改革により、1948（昭和 23）年4月に新制武蔵高等学校、翌年に新制武蔵大学、新制武蔵中学校が開設され、学校法人根津育英会武蔵学園として現在に至る。武蔵大学は、経済、人文、社会の3学部8学科からなる文系総合大学。一年次から4年間のゼミナールが必修で「ゼミの武蔵」といわれる。近年ではロンドン大学の学位が取得できるプログラムや国際村の設置などグローバル教育にも力を入れている。

学長 山崎哲哉 〒176-8534 東京都練馬区豊玉上 1-26-1